

ペテロの前の書

第一章

一 イエス・キリストの使徒ペテロ、書をボント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤに散りて宿れる者、ニ即ち父なる神の預じめ知り給ふところに隨ひて御靈の潔により柔順ならんため、イエス・キリストの血の灑を受けんために選ばれたる者に贈る。願くは恩恵と平安と汝らに増さんことを。

三 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大なる憐憫に隨ひ、イエス・キリストの死人

の中より甦へり給へることに由り、我らを新に生れしめて生ける望を懐かせ、汝らの爲に天に蓄へある朽ち

ず、汚れず、萎まざる嗣業を繼がしめ給へり。五 汝らは終のときに顯れんとて備りたる救を得んために、信仰に

よりて神の力に護らるるなり。六 この故に汝ら今暫しの程さまさまの試煉によりて憂へざるを得ずとも、なほ大

に喜べり。七 汝らの信仰の驗は壞つる金の火にためさるるよりも貴くして、イエス・キリストの現れ給ふとき譽と

光榮と尊貴とを得べきなり。八 汝らイエスを見しことなけれど、之を愛し、今見ざれども、之を信じて、言ひがた

く、かつ光榮ある喜悅をもて喜ぶ。九 これ信仰の極、すなはち靈魂の救を受くるに因る。一〇 汝らの受くべき恩恵

を預言したる預言者たちは、この救につきて具に尋ね查べたり。二 即ち彼らは己が中に在すキリストの靈の、キ

イ 彼後一・一
口徒二・九を見よ
ハ 徒一六・六を見よ
ニ 徒二・九を見よ
ホ 徒二・九を見よ
ヘ 徒一六・七を見よ
ト 雅一・一を見よ
チ 彼前二・一を見よ

リ 羅八・二九を見よ
ヨ 彼前二・一〇
タ 多三・五 (加六・一六)
レ 彼前二・一四、二二
ニ 彼前二・一六を見よ
ヲ 來一〇・二二を見よ
カ 彼後一・二

ヨ 彼後一・三を見よ
タ 多三・五 (加六・一六)
レ 彼前二・一四、二二
ニ 彼前二・一六を見よ
ヲ 來一〇・二二を見よ
カ 彼後一・二

三 五、一五 來三・
六を見よ 撒後二・
一六 (約壹三・三三)
ウ 彼前二・一〇 撒後
二・二三
ネ 西一・五を見よ
(來一・二六)
ナ 彼前四・四
ラ 徒二〇・三二を見よ
羅八・二七

ム 彼前四・二三、五
一 羅八・一八を見よ
ウ 彼前二・一〇 撒後
二・二三
ネ 西一・五を見よ
(來一・二六)
ナ 彼前四・四
ラ 徒二〇・三二を見よ
羅八・二七

シ 雅一・二 (彼前四・
一三)
ヤ 羅五・二
マ 雅一・三
ケ 伯三三・一〇 詩六
六・一〇 箴一七・三
六・二〇 箴一七・三
エ (弗三・一九)
テ 約二〇・二九 (約壹
三・九 馬三・三 黙
三・一八 (哥前三・
一))

フ 彼前二・一三、四
一 三 路一七・三〇
を 見 よ
コ 羅二・七を見よ
エ (弗三・一九)
ユ 太二六・二四を見よ
路二四・二七、四四
メ 羅八・九 (彼後一
二・二)

サ 一〇一、二 (太一
三・二七 路一〇・
二四)
キ 彼前二・一三 (西三
・四)
ユ 太二六・二四を見よ
路二四・二七、四四
メ 羅八・九 (彼後一
二・二)

第二章

一 されば凡ての悪意、すべての詭計・偽善・嫉妬および凡ての謗を棄てて、二 いま生れし嬰兒のごとく靈の眞の乳を慕へ、之により育ちて救に至らん爲なり。三 なんぢら既に主の仁慈あることを味ひ知りたらんには、然すべきなり。四 主は人に棄てられ給へど、神に選ばれたる貴き活ける石なり。五 なんぢら彼にきたり、活ける石のごとく建られて靈の家となれ。これ潔き祭司となり、イエス・キリストに由りて神に喜ばるる靈の犠牲を獻げん爲なり。六 聖書に「視よ、選ばれたる貴き隅の首石を我シオンに置く。之に依り頼む者は辱しめられじ」とあるなり。七 されば信する汝らには、尊きなれど、信ぜぬ者には「造家者らの棄てたる石は、隅の首石となれる」にて、八「つまづく石、礙ぐる岩」となるなり。彼らは服はぬに因りて御言に躓く。これは斯く定められたるなり。九 されど汝らは選ばれたる族、王なる祭司・潔き國人・神に屬ける民なり、これ汝らを暗黒より召して、己の妙なる光に入れ給ひし者の譽を顯させん爲なり。一〇 なんぢら前には民にあらざりしが、今は神の民なり。前には憐憫を蒙らざりしが、今は憐憫を蒙れり。

二 愛する者よ、われ汝らに勸む。汝らは旅人また宿れる者なれば、靈魂に逆ひて戦ふ肉の慾を避け、三 異邦人の中にありて行狀を美しく爲よ、これ汝らを誘りて、惡をおこなふ者と云へる人々の、汝らの善き行爲を見て、反つて眷顧の日に神を崇めん爲なり。

三 なんぢら主のために凡て人の立てたる制度に服へ。或は上に在る王、四 或は惡をおこなふ者を罰し、善を

イ雅四・一を見よ
ロ弗四・二を見よ
ハ(太一八・三、一九)
一四 可一〇・一五
路一八・一七 哥前
一四・二〇
二 哥前三・二を見よ
ホ(弗四・一五、一六)

ヘ多三・四 (詩三四・
一・六)
ト(來六・五)
チ彼前二・七
リ哥前三・九を見よ
又提前三・一五を見よ
(加六・一〇)
ル彼前二・九(賽六一
一・六)

六、六六・二一 歌
ヨ七、八 哥後二・一六
カ弗二・二〇を見よ
ナ申一〇・一五 賽四
三・二〇、二一
タ詩二一八・二二
レ太二一・四二を見よ
(路二・三四)
ソ賽八・一四
ツ哥前二・二三を見よ

加五・一一
ネ(羅九・二二) 猶四
ノ何一・一〇、二、二三
三・二〇、二五
ラ彼前二・五を見よ
ム出一九・六 申七・六
ウ多二・一四を見よ
井徒二六・一八を見よ
ク羅一・二二を見よ

(賽四二・一六) 哥後
ヤ利二五・二三 詩三
四・六
九・二二 彼前一
一、二七 來一一
一三(弗二・一九)
マ羅七・二三を見よ
ケ羅一三・一四を見よ
フ(彼前二・一五、三、
一六) 哥後八・二二

群二・一五 多二
七、八
コ徒二八・二三を見よ
エ路一九・四四
(賽一〇・三)
マ羅七・二三を見よ
ケ羅一三・一四を見よ
テ彼前四・一一、一六
太五・一六、九、八を
見よ(約一三・三一)

ア羅一二三・一を見よ
サ羅一三・四
キ羅一三三・三
エ(羅一・二・一〇、一
三・七)
イ雅三・一七を見よ
ヘ約三・一四、一七、
ト太一・二九を見よ
ル雅五三・四、一、哥
ヨ賽五三・六
ナ羅七・二二を見よ
レ(彼前三・七)
ソ弗五・二二を見よ
ツ哥前九・一九を見よ
ネ提前二・九(賽三・
一八―二四)

キ羅一三三・三
エ(羅一・二・一〇、一
三・七)
イ雅三・一七を見よ
ヘ約三・一四、一七、
ト太一・二九を見よ
ル雅五三・四、一、哥
ヨ賽五三・六
ナ羅七・二二を見よ
レ(彼前三・七)
ソ弗五・二二を見よ
ツ哥前九・一九を見よ
ネ提前二・九(賽三・
一八―二四)

二五 おこなふ者を賞せんために王より遣されたる司に服へ。二五 善を行ひて愚なる人の無知の言を止むるは、神の御意

二六 なければなり。二六 なんぢら自由なる者のごとく爲とも、その自由をもて悪の覆となさず、神の僕のごとく爲よ。

二七 なんぢら凡ての人を敬ひ、兄弟を愛し、神を畏れ、王を尊べ。

二八 僕たる者よ、大なる畏をもて主人に服へ、常に善きもの、寛容なる者にのみならず、情なき者にも服へ、

二九 人もし受くべからざる苦難を受け、神を認むるに因りて憂に堪ふる事をせば、これ譽むべきなり。三〇 もし罪を

犯して撻たるるとき、之を忍ぶとも何の功かある。然れど若し善を行ひてなほ苦しめらるる時これを忍ばば、こ

三一 神の譽めたまふ所なり。三二 汝らは之がために召されたり、キリストも汝らの爲に苦難をうけ、汝らを其の足跡

三三 に随はしめんとて模範を遺し給へるなり。三三 彼は罪を犯さず、その口に虚偽なく、三三 また罵られて罵らず、苦し

三四 められて脅かさず、正しく審きたまふ者に己を委ね、三四 木の上に懸りて、みづから我らの罪を己が身に負ひ給へ

三五 り。これ我らが罪に就きて死に、義に就きて生きん爲なり。汝らは彼の傷によりて癒されたり。三五 なんぢら前に

は羊のごとく迷ひたりしが、今は汝らの靈魂の牧者たる監督に歸りたり。

第三章

一 妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に違はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき
二 行状を見て、言によらず妻の行状によりて救に入らん爲なり。三 汝らは髪を辨み、金をかけ、

四 衣服を装ふごとき表面のものを飾とせず、四 心のうちの隠れたる人、すなはち柔和、恬靜なる靈の朽ちぬ物を飾

五 とすべし、是こそは神の前にて價貴きものなれ。五むかし神に望を置きたる潔き女等も、斯の如くその夫に服ひて己を飾りたり。六即ちサラがアブラハムを主と呼びて之に服ひし如し。汝らも善を行ひて何事にも戦き懼れず

ばサラの子たるなり。

七 夫たる者よ、汝らその妻を己より弱き器の如くし、知識にしたがひて偕に棲み、生命の恩恵を共に嗣ぐ者として之を貴べ。これ汝らの祈に妨害なからん爲なり。

九八 終に言ふ、汝らみな心を同じうし互に思ひ遣り、兄弟を愛し、憐み、謙遜り、九 悪をもて惡に、謗をもて

一〇 謗に報ゆることなく、反つて之を祝福せよ。汝らの召されたるは祝福を嗣がん爲なればなり。一〇 生命を愛し、善

二 き日を送らんとする者は、舌を抑へて惡を避け、二 口唇を抑へて虚偽を語らず、惡より遠ざかりて善をおこな

三 ひ、平和を求めて之を追ふべし。三 され主の目は義人の上に止まり、その耳は彼らの祈に傾く。されど主の御顔

は惡をおこなふ者に向ふ』

一三 汝等もし善に熱心ならば誰か汝らを害はん。一四 たとひ義のために苦しめらるる事ありとも、汝ら幸福なり

一五 『彼らの威嚇を懼るな、また心を騒がすな』一五 心の中にキリストを主と崇めよ、また汝らの衷にある望の理由を

一六 問ふ人には、柔和と畏懼とをもて常に辯明すべき準備をなし、一六 かつ善き良心を保て。これ汝等のキリストに在

一七 りて行ふ善き行状を罵る者の、その謗ることに就きて自ら愧ぢん爲なり。一七 もし善をおこなひて苦難を受くる

一八 こと神の御意ならば、惡を行ひて苦難を受くるに勝るなり。一八 キリストも汝らを神に近づかせんとて、正しきも

イ 提前五・五及び彼 (彼前三・一) リ 弗四・二 勝二・三 ヲ 路六・二八 羅一・二 三 詩三四・二 一六 ツ (彼前三・六 察八・ム 彼前二・一七を見よ 五) 前一・三を見よ 水 撒前四・四 彼前二・五 一四 弗前四・二二 タ (彼一六・七) 一三 一三 ウ (西四・六) 才 彼前四・四 口 創一八・一二 へ 羅一・二 一六を見よ 又 羅一・二 一七を見よ ヲ 彼前二・二二 レ 彼前二・一九、二〇、ネ (彼前二・三三) 井 彼前二・二二 提前 一五、一六 八 (彼前三・二四) ト 彼前二・二二 ル 彼前二・二三を見よ カ 加三・二四 水 六・四 一五、一六 ナ 彼前二・三を見よ 一五を見よ 一 一五を見よ 二 弗五・二五を見よ チ 弗四・三二 弗前四・二二 一四 (來二・一七) ソ 雅五・一一 ラ 提後二・二五を見よ ノ (彼前二・一二、一 一 弗前二・一五、四、

一九 徒一八・二一 フ 來九・二八、一〇・七
 (彼前一・六) 一〇 サ 羅二・四を見よ
 マ 彼前二・二一を見よ コ 一 西一・キ 創六・三、五、一三
 ケ 羅五・二を見よ 二二 エ 彼前二・五 (創八・
 エ 彼前四・六 一八)
 テ 彼前四・六 一(多三・五)
 ア 創六・二四 來二一 ミ 來九・一四を見よ
 シ 彼前三・一六を見よ
 イ 彼前二・二一を見よ
 ロ (弗六・二一)
 ハ 羅六・七
 ニ (羅六・二 西三・三)
 ホ (彼前一・二四)
 ヘ (哥前二・二二)
 ト 弗二・一を見よ
 チ 弗五・一八を見よ
 リ 彼前三・一六
 ヌ 徒一〇・四二を見よ
 (羅一四・九)
 ル 彼前一・二二を見よ
 テ 彼前三・一九
 ワ 羅一三・二一を見よ
 (來九・二六)
 カ 彼前一・二三を見よ
 ヨ 彼前一・二三を見よ
 タ 彼一〇・二二 雅五
 ニ〇 (哥前一三・
 四一八)
 ソ (彼前五・一〇)
 ツ 哥前四・一を見よ

一九 の正しからぬ者に代りて、一たび罪のために死に給へり、彼は肉體にて殺され、靈にて生かされ給へるなり。二〇 また靈にて往き、獄にある靈に宣傳へたまへり。二〇 これらの靈は昔ノアの時代に方舟の備へらるるあひだ、寛容をもて神の待ち給へるとき、服はざりし者どもなり、その方舟に入り水を經て救はれし者は、僅にしてただ八人なりき。二二 その水に象れるバプテスマは肉の汚穢を除くにあらず、善き良心の神に對する要求にして、イエス・キリストの復活によりて今なんぢらを救ふ。二三 彼は天に昇りて神の右に在す。御使たち及びもろもろの權威と能力とは彼に服ふなり。

第四章

一 キリスト肉體にて苦難を受け給ひたれば、汝らも亦おなじ心をもて自ら鎧へ。――肉體にて苦難を受くる者は罪を止むるなり――二 これ今よりのち、人の慾に従はず、神の御意に従ひて肉體に寓れる殘の時を過さん爲なり。三 なんぢら過ぎにし日は、異邦人の好む所をおこなひ、好色・慾情・酩酊・宴樂・暴飲・律法にかなはぬ偶像崇拜に歩みて、もはや足れり。四 彼らは汝らの己とともに放蕩の極に走らぬを怪しみて譏るなり。五 彼らは生ける者と死にたる者とを審く準備をなし給へる者に己のことを陳ぶべし。六 福音の、死にたる者に宣傳へられしは、彼らが肉體にて人のごとく審かれ、靈にて神のごとく生きん爲なり。

七 萬の物のをはり近づけり、然れば汝ら心を慥にし、慎みて祈せよ。八 何事よりも先づ互に熱く相愛せよ。九 愛は多くの罪を掩へばなり。九 また吝むことなく互に懇ろに待せ。一〇 神のさまざまの恩恵を掌どる善き家司の

二 ごとく、各人その受けし賜物をもて互に事へよ。二もし語るならば、神の言をかたる者のごとく語り、事ふるならば、神の與へたまふ能力を受けたる者のごとく事へよ。是イエス・キリストによりて事々に神の崇められ給はん爲なり。榮光と權力とは世々限りなく彼に歸するなり、アアメン。

三 愛する者よ、汝らを試みんとて來れる火のごとき試煉を異なる事として怪しまず、三反つてキリストの

四 苦難に與れば、與るほど喜べ、なんぢら彼の榮光の顯れん時にも喜び樂しまん爲なり。一四もし汝等キリストの名

五 のために誘われなば幸福なり。榮光の御靈、すなはち神の御靈なんぢらの上に留まり給へばなり。一五 汝等のうち

誰にても或は殺人、あるひは盗人、あるひは惡を行ふ者、あるひは妄に他人の事に干渉する者となりて苦難に遭

六 ふな。一六されど若しキリストアンたるをもて苦難を受けなば、之を恥づることなく、反つて此の名によりて神を

七 崇めよ。一七既に時いたれり、審判は神の家より始まるべし。まづ我等より始まるとせば、神の福音に従はざる者

一八 のその結局は如何ぞや。一八 義人もし辛うじて救はるるならば、不敬虔なるもの、罪ある者は何處にか立たん。一九

されば神の御意に従ひて苦難を受くる者は、善を行ひて己が靈魂を眞實なる造物主にゆだね奉るべし。

第五章

一 われ汝らの中なる長老たちに勸む（我は汝らと同じく長老たる者、またキリストの苦難の證人、顯れんとする榮光に與る者なり）ニ 汝らの中にある神の群羊を牧へ。止むを得ずして爲さず、神に従ひて心より爲し、利を貪るために爲さず、悦びてなし、三 委ねられたる者の主とならず、群羊の模範となれ。

イ 羅二・二・六、七を見よ
ロ 撒前二・四（多二・一、二五）來一三・七
ハ 徒七・三八を見よ
ニ 弗一・一九、見よ
ホ 哥前二・三・一

へ 彼前二・二二を見よ
ト 黙一・六、五・二三
ル 彼前一・七を見よ
ヲ 提後二・一二
チ 彼前二・二一を見よ
リ 彼前二・二六、七
ヌ 腓三・一〇（哥後四・一）
ヘ 羅八・一七

を 見よ
ル 彼前一・七を見よ
ヲ 提後二・一二
タ 撒前四・二一 撒後三・二一 提前五・一
ネ 彼前四・一一
ナ 提前三・一五を見よ
ラ 耶二・二九 結九・六 摩三・二
ム 羅二・九を見よ

ヨ（哥後四・一〇、一）
一、一六
タ 撒前四・二一 撒後三・二一 提前五・一
レ 彼前二・一九、二〇
ヲ 耶二・二九 結九・六 摩三・二
ム 羅二・九を見よ

（徒二・八・二三）雅二・一
ウ 羅一・二を見よ
ケ 路二・四八を見よ
（來二・二）
フ 彼前一・五を見よ
（約二・一・三）
コ 約二・一六を見よ
エ 門一・四
テ 提前三・八を見よ
ア 太二〇・二六、二七、

（結三四・四）
サ 腓三・一七 撒前一・七 撒後三・九 提前四・一二 多二・七、八（約一三・一五）

キ彼前二・二五を見よ
 二 彼前二・二五を見よ
 三 彼前二・二五を見よ
 四 彼前二・二五を見よ
 五 彼前二・二五を見よ
 六 彼前二・二五を見よ
 七 彼前二・二五を見よ
 八 彼前二・二五を見よ
 九 彼前二・二五を見よ
 一〇 彼前二・二五を見よ
 一一 彼前二・二五を見よ
 一二 彼前二・二五を見よ
 一三 彼前二・二五を見よ
 一四 彼前二・二五を見よ
 一五 彼前二・二五を見よ
 一六 彼前二・二五を見よ
 一七 彼前二・二五を見よ
 一八 彼前二・二五を見よ
 一九 彼前二・二五を見よ
 二〇 彼前二・二五を見よ
 二一 彼前二・二五を見よ
 二二 彼前二・二五を見よ
 二三 彼前二・二五を見よ
 二四 彼前二・二五を見よ
 二五 彼前二・二五を見よ
 二六 彼前二・二五を見よ
 二七 彼前二・二五を見よ
 二八 彼前二・二五を見よ
 二九 彼前二・二五を見よ
 三〇 彼前二・二五を見よ
 三一 彼前二・二五を見よ
 三二 彼前二・二五を見よ
 三三 彼前二・二五を見よ
 三四 彼前二・二五を見よ
 三五 彼前二・二五を見よ
 三六 彼前二・二五を見よ
 三七 彼前二・二五を見よ
 三八 彼前二・二五を見よ
 三九 彼前二・二五を見よ
 四〇 彼前二・二五を見よ
 四一 彼前二・二五を見よ
 四二 彼前二・二五を見よ
 四三 彼前二・二五を見よ
 四四 彼前二・二五を見よ
 四五 彼前二・二五を見よ
 四六 彼前二・二五を見よ
 四七 彼前二・二五を見よ
 四八 彼前二・二五を見よ
 四九 彼前二・二五を見よ
 五〇 彼前二・二五を見よ
 五一 彼前二・二五を見よ
 五二 彼前二・二五を見よ
 五三 彼前二・二五を見よ
 五四 彼前二・二五を見よ
 五五 彼前二・二五を見よ
 五六 彼前二・二五を見よ
 五七 彼前二・二五を見よ
 五八 彼前二・二五を見よ
 五九 彼前二・二五を見よ
 六〇 彼前二・二五を見よ
 六一 彼前二・二五を見よ
 六二 彼前二・二五を見よ
 六三 彼前二・二五を見よ
 六四 彼前二・二五を見よ
 六五 彼前二・二五を見よ
 六六 彼前二・二五を見よ
 六七 彼前二・二五を見よ
 六八 彼前二・二五を見よ
 六九 彼前二・二五を見よ
 七〇 彼前二・二五を見よ
 七一 彼前二・二五を見よ
 七二 彼前二・二五を見よ
 七三 彼前二・二五を見よ
 七四 彼前二・二五を見よ
 七五 彼前二・二五を見よ
 七六 彼前二・二五を見よ
 七七 彼前二・二五を見よ
 七八 彼前二・二五を見よ
 七九 彼前二・二五を見よ
 八〇 彼前二・二五を見よ
 八一 彼前二・二五を見よ
 八二 彼前二・二五を見よ
 八三 彼前二・二五を見よ
 八四 彼前二・二五を見よ
 八五 彼前二・二五を見よ
 八六 彼前二・二五を見よ
 八七 彼前二・二五を見よ
 八八 彼前二・二五を見よ
 八九 彼前二・二五を見よ
 九〇 彼前二・二五を見よ
 九一 彼前二・二五を見よ
 九二 彼前二・二五を見よ
 九三 彼前二・二五を見よ
 九四 彼前二・二五を見よ
 九五 彼前二・二五を見よ
 九六 彼前二・二五を見よ
 九七 彼前二・二五を見よ
 九八 彼前二・二五を見よ
 九九 彼前二・二五を見よ
 一〇〇 彼前二・二五を見よ

四 さらば大牧者の現れ給ふとき、萎まざる光榮の冠冕を受けん。五 若き者よ、なんぢら長老たちに服へ、かつ皆
 たがひに謙遜をまとへ、「神は高ぶる者を拒ぎ、謙だる者に恩恵を與へ給ふ」六 この故に神の能力ある御手の下に
 己を卑うせよ、然らば時に及びて神なんぢらを高うし給はん。七 又もろもろの心勞を神に委ねよ、神なんぢら
 の爲に慮ばかり給へばなり。八 慎みて目を覺しをれ、汝らの仇なる惡魔、ほゆる獅子のごとく歴廻りて吞むべき
 ものを尋ぬ。九 なんぢら信仰を堅うして彼を禦げ、なんぢらは世にある兄弟たちの同じ苦難に遭ふを知ればな
 り。一〇 もろもろの恩惠の神、すなはち永遠の榮光を受けしめんとして、キリストによりて汝らを召し給へる神は、
 汝らが暫く苦難をうくる後、なんぢらを全うし、堅うし、強くして、その基を定め給はん。一一 願くは權力世々限
 りなく神にあれ、アアメン。
 一二 われ忠實なる兄弟なりと思ふシルワノに由りて簡單に書贈りて汝らに勧め、かつ此は神の眞の恩惠なるこ
 とを證す、汝等この恩恵に立て。一三 汝らと共に選ばれてバビロンに在る教會、なんぢらに安否を問ふ、わが子
 マルコも安否を問ふ。一四 なんぢら愛の接吻をもて互に安否を問へ。
 願くはキリストに在る汝ら衆に、平安あらんことを。

ペテロの前の書 をはり
 三・一八 異本「苦難を受け給へり」
 さあり。